

府立とりかい高等支援学校
校 長 青木 康子

平成 30 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒一人ひとりの人権を尊重し、生徒全員の就労を通じた社会自立をめざした教育を推進することにより、「社会に貢献できる人材の育成」と「心豊かに自己の生活を充実していくことができる人間の育成」をめざす。

地域や関係機関との連携を深める中で、高等支援学校として、時代のニーズに対応した専門的機能を再構築し、高い就労率と高い定着率をめざす。

- 1 個々の生徒の持てる力を最大限に発揮できる教育実践を行い、一人ひとりのニーズに対応した充実した「進路学習と進路指導」を行うことにより、生徒全員の就労と社会自立をめざす。
- 2 高等支援学校の教員としての高い専門性をもって、継続的系統的にキャリア教育を行い、生徒の社会的自立へのチャレンジを支援する。
- 3 地域や関係機関との連携を深め、地域にある社会的資源をより有効に活用する中で、生徒の豊かな社会体験をはぐくみ、主体的に社会に貢献できる人材を育成する。

2 中期的目標

- 1 「集団指導」と「個別指導」を有効かつ適切に行い、就労を通じた社会自立を見据えた教育活動の充実を図る。
 - (1) 1 年次より、学年集団をベースとした、適切な「集団指導」を継続的に行い、生徒指導の充実を図るとともに社会のルールを自覚させる。
 - (2) 「個別の指導計画」をベースとした「個別指導」を適宜行い、就労に向けた社会性の育成に努める。
 - (3) 課題のある生徒の課題解決に向けて、学校外の専門家や地域の関係機関と連携協力し、適宜「ケース会議」を開き、生徒を支援していく。
 - (4) 情報発信を含めた進路学習、進路指導の充実を図る。
- 2 各教科、各職業学科の取り組みにおいて授業力向上をさらに推し進め、高等支援学校教員としての資質の向上をめざす。
 - (1) 年間指導計画を含んだ「シラバス」の再構築及び毎授業時間における「授業略案」の作成により、計画的な授業を推進する。
 - (2) 全教員の授業力向上と高等支援学校教員としての専門性向上、ミドルリーダーの育成。
 - (3) 本校独自の系統的なキャリア教育のさらなる充実をめざす中で、教育課程を引き続き見直す。特に、学科の充実を図ることを主眼とする。
 - (4) 働き方の改革意識改革を進める。
- 3 地域社会とより広く連携し、社会参加により生徒の自己肯定感を高める中で一層の自立心を育成する。
 - (1) 学習の充実 <近隣の高校との交流及び共同学習 摂津支援との連携>
 - (2) 地域への積極的な情報発信も含め、地域との連携事業の充実 <自治会、公民館・淀川河川事務所、企業、地域の中学校等>
 - (3) 職場開拓を積極的に進め、生徒のニーズや持てる力に見合った企業とのマッチングに努める学校をめざす。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 30 年 12 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	進捗状況
1、 就労を通じた社会自立を見据えた教育活動の充実	<p>(1) 1年次より、学年集団をベースとした、適切な「集団指導」を継続的に行い、生徒指導の充実を図るとともに社会のルールを自覚させる。</p> <p>(2) 「個別の指導計画」をベースとした「個別指導」を適宜行い、就労に向けた社会性の育成に努める。</p> <p>(3) 課題のある生徒の課題解決に向けて、学校外の専門家や地域の関係機関と連携協力し、適宜「ケース会議」を開き、生徒を支援していく。</p> <p>(4) 情報発信を含めた進路学習、進路指導の充実を図る</p>	<p>(1) 就労に向けて規則正しい生活習慣を身に付けるための充実した生活指導等を保護者との連携のもと、日常的・継続的に行う。クラブ活動の積極的な参画を進める。</p> <p>(2) 個別指導を主として、適宜指導を行い、生徒自らが相談しやすい雰囲気づくりに努める。</p> <p>(3) ア 外部人材の活用を積極的に進める。</p> <p>イ 外部機関と連携のもと、「ケース会議」の開催を適宜開き、事案解決と生徒育成、また家庭支援も図る。</p> <p>ウ 保護者となる施設との連携強化。</p> <p>(4) ア 生徒への進路学習の充実 ・企業実習の充実（内容、回数等） ・校内進路学習の充実</p> <p>イ 生徒、保護者への進路情報の十分な発信</p>	<p>(1) ・「面接時」を基準とした身だしなみ指導を徹底する。 「身だしなみチェック週間」の実施 全クラス「身だしなみチェック項目100%」をめざす ・自発的なあいさつと学校生活全般を通して、TPOに応じた丁寧な言葉遣いや敬語の使い方を習得する。 (下校時、校門付近でのあいさつ指導実施) ・性に関する指導の充実（段階的計画的実施。年間3回以上） ・部活動加入率 80%達成 (H29:65%)</p> <p>(2) ・生徒との定期的な懇談、昼休みのカウンセリング（2回/週）等実施。 カウンセリング利用者増 (年間 60人) ・「学校教育自己診断」の「担任に困っていることや悩みを相談できる」肯定的評価 70%以上。</p> <p>(3) ア・スクールカウンセラーを招聘（10回）。 (福祉医療人材活用制度の利用)</p> <p>イ・子家センとの連携による定期的な「ケース会議」実施（年3回）</p> <p>ウ・「関係施設連絡会議」の実施（2回/年）</p> <p>(4) ア ・個々の生徒の状況、学校、企業の調整により年中適宜実習実施。 ・1、2年生の企業実習の回数増 (1年：一人2回以上、2年：3回以上) ・アフターフォローの充実 (1年後の離職者3名未満)</p> <p>イ 進路情報の発信を充実させ学校教育自己診断において保護者からの肯定評価 70%以上をめざす ・進路懇談を実施（学級懇談との連携） 保護者のニーズを十分に把握 ・進路説明会の充実、保護者の企業見学実施</p>	

<p>2、高等支援学校教員としての資質向上</p>	<p>(1) 年間指導計画を含んだ「シラバス」の再構築及び毎授業時間における「授業略案」の作成により、計画的な授業を推進する。</p> <p>(2) 全教員の授業力向上と高等支援学校教員としての専門性向上、ミドルリーダーの育成。</p> <p>(3) 本校独自の系統的なキャリア教育のさらなる充実をめざす中で、教育課程を引き続き見直す。特に、学科の充実を図ることを主眼とする。</p> <p>(4) 働き方の意識改革を進める</p>	<p>(1)</p> <p>ア 「シラバス」のバージョンアップと授業準備、振り返りの徹底 (P D C A)</p> <p>イ 学科や科目の授業内容の充実と工夫及び教材教具の整備と充実。</p> <p>ウ 整理整頓や校内美化を進め整備された環境での授業実施。</p> <p>(2)</p> <p>ア 教員間の研究授業、研究協議の実施</p> <p>イ 新転任、経験年数の少ない教員等の企業職場体験実習実施 中堅、経験の少ない教員の斬新な発想を支援し校務遂行能力を育てる</p> <p>ウ 高等支援学校教員としてのビジネスマナー、プレゼンテーションスキル、法令や福祉制度に関する基礎知識等の習得人材バンク等外部人材の授業等への積極活用</p> <p>(3)</p> <p>ア 本校独自の3年間の系統的なキャリア教育の充実をめざす。</p> <p>イ 「職業共通」の授業内容のさらなる充実</p> <p>ウ 行事の見直しを行う。(泊を伴うもの、校外学習等)</p> <p>(4) ノークラブディ、一斉定時退庁の周知徹底により長時間勤務の縮減をめざす</p>	<p>(1)</p> <p>ア 学習指導要領に基づいた教科の目標や内容を見直し、教育活動全体が連動した内容の「シラバス」とする。 ・対人関係、コミュニケーションに主眼を置く「自立活動」の実施 ・略案作成の徹底</p> <p>イ 職業教育の研修実施 (年2回以上)</p> <p>ウ 検定受験や資格取得に向けた取り組み ・摂津支援学校との連携による共用教室の教材教具の整備、整理整頓。校内美化、整美。校舎周りや校門近くの整美。 ・使用に向けた情報共有会議実施 (3回/年)。</p> <p>(2)</p> <p>ア 初任者年3回、他教員年2回実施。 見学実施 (教員:2回以上/1人) ・校内研究授業週間を他支援学校等へ公開する。 (他校からの見学者20人以上)</p> <p>イ 初任者を中心とした経験年数の少ない教員を中心に、外部講師の招聘し、指導助言を受ける。(研究協議2回、教科授業関係者参加率80%以上)</p> <p>イ 1, 2年目教員対象に実施 (8回/年)</p> <p>ウ 教員のビジネスマナー研修、定期的な伝達講習を実施 (5回以上)。</p> <p>エ 年10回以上</p> <p>(3)</p> <p>ア 本校版のキャリアプランニングマトリクスと各教科・領域の連動について検討実施 (全体研修1回/年)</p> <p>イ アビリンピック参加種目との連携を検討。(追加種目の検討)</p> <p>ウ 新PTを立ち上げ3年間を通じた行事の見直しを図る。(研修旅行検討PT、及び校外学習検討PT)</p> <p>(4)</p> <p>・労働安全衛生委員会の開催 (1回/月)</p> <p>・教員への時間外在校時間の提示</p> <p>・会議の効率化 (資料の事前配布等)</p>	
<p>3、地域・関係機関との連携強化</p>	<p>(1) 交流及び共同学習の充実</p> <p>(2) 地域への積極的な情報発信も含め、地域との連携事業の充実</p> <p>(3) 職場開拓を積極的に進め、生徒のニーズや持てる力に見合った企業とのマッチングに努める学校をめざす。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 共生推進教室との交流を図り共同学習をめざす。またスポーツクラブを中心とした交流を実施することで本校生徒のスポーツ技量向上めざし、余暇活動の充実につなげる。</p> <p>イ 併置校との交流学習実施。</p> <p>(2)</p> <p>ア 本校アドミッションポリシーの深く広い浸透を図るとともに、地域への積極的な情報発信</p> <p>イ 地域行事へ積極的に参加し交流を深めるとともに啓発に努める。</p> <p>ウ 地域、関係機関との連携強化</p> <p>エ 保護者の学校行事参加率増</p> <p>(3)</p> <p>ア、職場開拓は、本校の恒常的な業務と捉え、教員全員が、「進路担当者」の自覚を持つ。</p> <p>イ、持続的・継続的に就労率向上と職場定着率向上をめざす。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 共生推進校との交流及び共同学習 (3回以上) クラブ交流 (2回以上)</p> <p>・共生推進教室設置校の教員対象に本校での共生生徒の様子報告会等を実施する。(各校1回)</p> <p>イ 摂津支援との交流授業3回以上。</p> <p>(2)</p> <p>ア 地域での学校説明会を積極的に実施 (3回以上)</p> <p>・夏季休業中の中学校訪問実施 (20校以上)</p> <p>・行事の一般公開 (学校祭、体育祭)</p> <p>・自治会への学校だよりの発行地区増 (2地区→3地区)</p> <p>・HPの充実 (4回以上/月の更新)</p> <p>イ 地域住民の行事への招聘 (喫茶・販売に招く) (地域からの来校者20人以上)</p> <p>ウ 関係施設連絡会議の実施 (2回/年)</p> <p>・水害時の避難所協定を活かし、地域からの学校施設見学会実施 (1回/年)</p> <p>エ 授業参観週間の保護者参加増 (全)</p> <p>(3)</p> <p>・企業への学校説明会実施 (2回以上/年)</p> <p>・企業からの見学を積極的に受け入れる</p> <p>・企業実習延べ回数10%増</p> <p>イ 就労率の向上 (本校生85%以上)</p> <p>・定着率の向上 (1年後の離職者3名未満)</p>	